Ⅰ－2　岡山県邑久郡中島家史料調査報告（一）

中山学[1]・黒澤学[1]・酒井シヅ[2]
[1]法政大学大学院
[2]順天堂大学医史学研究室

本研究は特定研究「江戸のモノづくり」の一環として、平成一五年から岡山県邑久郡邑久町に十代続いた医家中島家の史料を調査し、その目録を作り、史料の意義を検討することを目的としたものである。今回は予備調査の段階であるので、調査結果の一部の報告にとどめる。

中島家の現在の当主中島洋一氏は、医家として九代目であり、現在、岡山市妹尾に「なかじま病院」を経営されている。先代まで邑久郡邑久町で中島医院を経営されてきた。現在、同家に医史料として残るものはほとんど八代までのものである。

史料の特色は大別して、①診療関係の文書、家族の記録、趣味、学業の文書類と書翰、②医書、儒教、文学、宗教関係の書物③医療器機、売薬の版木などの器物である。

これらの史料はすべて中島の歴代の医師やその家族が伝承してきたものであって、外部から史料として取得したものは含まれていない。医書は歴代にわたって学習したものであり、文書には邑久村で行われてきた医療の実態を語る文書が多数含まれている。器物には、中島家が販売した売薬の版木が多数あるが、それは家伝の売薬の包装紙や宣伝用のものであり、これから医家が販売した売薬の種類、効能、値段、成分などの詳細を知ることが出来る。これと一般に流布した売薬とを比較すると、地域で販売される売薬の役割を知る手がかりを与えてくれる。

同家の医書はもっとも古いもので慶安年間のものである。新しいものは明治以後の刊本である。このなかで注目するのは『解体新書』および蘭学関係の医書である。しかし、標準的な漢方の医書もそろっている。しかも刊本が多い。これらから漢蘭折衷であったこと

が読み取れる。

ところで一族の系譜をみると、大工職であった中島多四郎友行（―享保七年〔一七二二〕）が始祖であったが、その次の世代から当主が十代にわたって医業を営んできた。

その医家の系譜は左のとおりである

医門一世中島友三…貞享二年～宝暦七年（一六八五―一七五七）

二世中島玄古…正徳五年～寛政一年（一七一五―一七八九）

三世中島宗仙…安永三年～天保十一年（一七七四―一八四〇）、文政二年（一八一九）長崎遊学。

四世中島友玄…文化五年～明治九年（一八〇八―一八七六）、天保三年（一八三二）京都遊学。

五世中島玄章…天保六年～安政七年（一八三五―一八六〇）

六世中島折乙（たもつ）…天保十三年～明治三十一年（一八四二―一八九八）、文久二年（一八六二）養子となる。岡山医学館卒。

七世中島一太…明治二年～昭和三年（一八六九―一九二八）、明治三十七年（一九〇四）日露戦役従軍。愛知医学校卒。

八世中島達二…明治三十七年～昭和五十九年（一九〇四―一九八四）、昭和六年（一九三一）岡山医科大学卒。

九世中島洋一…昭和十年（一九三五）～、昭和三十六年（一九六〇）岡山大学医学部卒。

十世中島祐一…昭和四十二年（一九六七）～、平成六年（一九九四）福岡大学医学部卒。

なお、家譜によると、江戸初期の一族には医師のほかは神職、僧侶が多かった。その子孫との姻戚関係がのちまで続いているが、こうした関係者が中島家と共に、邑久町地域の支配層を形成したであろうことが推測される。